

「開拓者たれ」創業 120 年 5 代目が切り開く酪農経営とは？



北海道のほぼ中央にある富良野市。ラベンダーのまち、ドラマ「北の国から」の舞台となったまちとしても知られています。

そんな富良野に 120 年前に淡路島から渡道し、様々な困難にも負けず、常にチャレンジ精神を持って未来を切り開いてきた牧場が、藤井牧場です。

従業員は、正社員 41 名、アルバイトや海外実習生も含めると計 65 名。

現在、2 つの牧場で約 1800 頭を飼育する全国有数の酪農家です。

藤井雄一郎さんは、藤井牧場の 5 代目として、現在も「開拓者たれ」という言葉をモットーに挑戦し続けています。

藤井牧場の特色を伺ってみたところ、第 1 牧場は、砂のベッドを用いた飼養管理、第 2 牧場は、戻したい肥を利用して牛のベッドを作っているとのこと。「砂だと寝起きがしやすく、牛が牧草地と同じようにリラックスできる。牛にとってもいい環境で過ごすことができるようになりました。」

さらには、成長支援制度を用いて 1 年に 4 回、必要な知識技術の習得などについてミーティングを開催し、しっかりと従業員の成長の支援を行ったり、自主流通を行い、牛乳のブランド化、チーズの商品開発も進めています。



砂のベッドで気持ちよさそう！



藤井牧場 5 代目 藤井雄一郎さん

「すべては安全で高品質な生乳生産を目指すため、生乳の付加価値を高めるため、現状に満足することなく牛も人もどんどん育てる牧場を目指しています。」

その言葉通り、藤井牧場は、2012 年に日本で初めて農場 HACCP 認証※を取得し、2017

年には JGAP 認証を取得しました。

「ヨーロッパでは消費者の商品選択の基準の一つとなっているユーレップギャップのような仕組みがないのか、と農水省に問い合わせをしたんです。

そしたら、農場 HACCP 認証制度を作ったということを知って、それが始まりでした」

2011 年にチーズの加工をはじめた頃には、すでにメガファームとなっていた藤井牧場。付加価値として、しっかりとした生産工程管理と安全性を売りに、優位に経営を進めていくには認証取得が必要だと考えていたので、ちょうどいいきっかけになったそうです。

※農場 HACCP とは

HACCP は Hazard Analysis Critical Control Point の頭文字をとったもので危害要因分析 (HA) 必須管理点 (CCP) といわれるもの。

畜産物の安全性向上のため、個々の畜産農場における衛生管理を向上させ、健康な家畜を生産するため、危害要因 (微生物、化学物質、異物など) を防止するための管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録を行うことにより、農場段階で危害要因をコントロールする手法のこと。

農場 HACCP 認証と JGAP 認証、2つの認証を持つ意義

農場 HACCP 認証と JGAP 認証の2つの認証を維持している藤井牧場。

JGAP 認証取得のきっかけは、JGAP が東京オリンピック・パラリンピックの調達基準だったことが大きかったようですが、取得に対しての苦労はなかったのでしょうか。

「生産工程の管理に関しては、農場 HACCP で構築してきたのでそのまま活かすことができましたが、農場 HACCP とは違う部分。アニマルウェルフェアもそうだし、環境に対してとか、人権の部分とか、そういった JGAP 独自の部分は、ちょっと勉強が必要でした。でも取得自体に困難があったというわけではなかったです。」



2 つの認証を取得しているということは、それぞれ審査もあり、経費もかかります。

2 つの認証を維持する意味はあるのでしょうか。

「GAP として必要なところと農場 HACCP として必要なところはちょっと違うんです。

HACCP は防御型の目線で使っていて、JGAP は販売上の攻めとして使っているんです。2 つを同時に走らせるっていうのは、そりゃ面倒くささはありますよ。どういう風に整理していこうかということは、従業員とも議論はありました。基準書の整理も、資料の整理も常に更新されるから、どう整理していくかも自分たちの課題だと思っている。それでも、現状に満足することなく、経営のために未来を切り開いていくために乗り越えていかなければいけないことだと考えています。」

常に未来を見据える姿勢、ここでも「開拓者たれ」の精神が根付いているようですね。

JGAP 認証取得によるメリットは？

藤井社長に、JGAP 認証取得によるメリットを伺ってみました。

「トレーステストはとても役に立ちました。うちは自主流通で出荷していて、何年かに一回はクレームが入ることもあるんです。トレーステストを行っていることで、急遽の対応で、自分がいなくても、従業員が対応できるようになりました。」

藤井牧場では、工程ごとに細かくチェック項目を定め、毎日記録に残しているため、たとえ異物混入があったという連絡が入ったとしても、いつ搾乳した牛乳なのか、その時の牛の状態はどうだったか、どんな餌を与えていたか、いつ搾乳機器やバルクを洗浄したかをすぐに相手先に伝えることができるのとこと、お客様からも信頼を得られているそうです。



「だからチェック項目一つ抜けると、製品を出したときに信ぴょう性が疑われるのではないかと、現場では一つでもおろそかにしてはいけないといういい緊張感が常にある感じです。みんなの気持ちが一つになってつながってきたのは、メガファームとしては重要なポイントだと思います。本当に JGAP に取り組んでよかったなと思ってます。」

メーカーや量販店などから「JGAP を取っているなら大丈夫だね」と言われることが増え、販売先が広がり、提携をとりやすくなるなど、認証を取得した意義や効果は感じることができているとのこと。

メガファームで期待される効率化や生産性の向上にも一役買った JGAP

藤井牧場は、従業員 65 名、収容頭数約 1800 頭、年間出荷乳量 11000t の日本でも有数のメガファームです。海外実習生も多い中、どのように従業員教育を行っているのでしょうか。

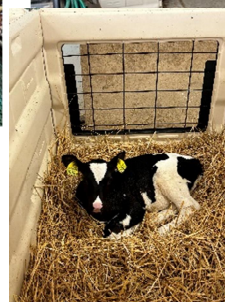
「基本的な作業に関しては、星取表みたいなものを作って指導しています。

現場の主任以上のメンバーが細分化された工程ごとにチェック項目を作成して、従業員のスキルをチェックしています。農場の規模が拡大されていき、日々やり方が変わっていく中で、みんな『認証を取っているのだからしっかりやろう』と、自分たち自身が責任感を持って牛乳を生産するために、現場では常に戦いとなる乳質の改善や抗生物質の管理も声をかけあってやってくれています。まじめに取り組んでくれている実習生も主任クラスで頑張ってくれていますよ。」
藤井牧場では、定期的に勉強会を行い、投棄の仕方をどうするか、働きやすくするためにほど

うするか、もっと牛を丁寧に扱うにはどうするか、もっと衛生的にするにはどうするかなど、従業員から改善の提案が出てくることは多く、その中で、生産工程と管理点とを照合しながら率先して改善していく姿勢がみられるそうです。



←搾乳後は毎回パーラーをきれいに清掃



↑掃除するために、子牛のハッチ（個別飼育用の部屋）を運んでいる様子。子牛の入れ替えの際は、必ずハッチを清掃し、衛生的に管理をしている。

←衛生的な敷料をたっぷり敷き、子牛も快適な環境で飼育されている。



不規則になりがちな社員の健康を考え、1食200円でバランスのとれた食事を食べられる社員食堂。20代前半の若い社員が多いこともあり、好評とのこと。

牛も人もどンドン育てる牧場のコンセプトが従業員の皆さんにもしっかり届いているようです。



牛の排泄物やパーラー排水等を処理するための浄化湿地。なんと東京ドーム100個分以上の面積。

今後の展望は？

藤井牧場の経営理念は、『開拓者たれ』。

今後も現状に満足することなく、あらゆる可能性に挑戦していきたい。そして、その信念を見せなければ、自ずと従業員も一緒に歩んでくれると、熱く語ってくれた藤井社長。

「自主流通で販売をやるっていうことは、もはや牧場ではなく、会社対会社なんです。責任ある対応を取っていかねばいけないことが多々あります。口頭で『管理をちゃんとしています。』『アニマルウェルフェアやっています』というより、基準に基づいて審査を受け、第三者認証を取得していると伝えられることが信頼につながる。一企業としてちゃんとした対応ができているとわかってもらえることが本当の意味で重要だと思っています。」

そこでポイントとなってくるのが2つの認証。

「味やブランドで勝負することも大事ですが、長期的にお付き合いすることを考えると信頼性、安全性、安定性も求められる。だからこそ、ちゃんとした管理ができていないと伝えるために、2つの認証をうまく取り入れ、販路拡大に向けて利用するとともに、農場の内部的には、農場の整備、生産工程の管理やマニュアル化など、働く人にとっての安心につなげています。」

認証を取得したから儲かるというわけでもない、両方の側面を見て、長期的にブランディングを積み上げていく取り組みだと思って対応していく、これが藤井牧場の酪農経営です。

藤井社長の挑戦はまだまだ続きます。

2020年に、一般社団法人A2ミルク協会を立ち上げ、代表理事に就任。

藤井牧場のA2ミルクは、添加物や成分調整などを加えることなく、大自然の牧場で生まれた牛乳でおなかに優しい牛乳として注目されています。

また、2030年までには富良野のまちに、日本農業の未来をつくり出す場所、「富良野未来開拓村」を創設すると掲げました。

藤井牧場の動向に、今後も目が離せません。



A2ミルク協会ウェブサイトより

藤井牧場の牛乳「北海道ふらの牛乳」は、地元北海道のほかに、関西、中部のスーパーで購入できます。

A2ミルクは、全国のイオンスタイルで。

チーズは、富良野にあるフラノマルシェ、もしくはふるさと納税サイトからも購入いただけます。

また、藤井牧場ウェブサイト(<http://www.fujii-bokujo.com/>)からもご注文可能です。

ぜひ、チェックしてみてください。



藤井牧場の牛乳「北海道富良野牛乳」とチーズ